E-5

東京方言における主格属格交替現象と総記のガに関して

佐久間篤 (南山大学大学院)
atsushi.sakuma.linguistics@gmail.com

1. はじめに

東京方言では従属節の中で、主語に「が」が付与されることも「の」が付与されることも可能である。この現象は”Nominative-Genitive Conversion(NGC; Harada 1971)”や”が-の交替(井上 1976)”、”主格属格交替現象”と呼ばれている(以下、主格属格交替現象とする)。主格属格交替現象が起こる節には、関係節や同格節など条件はあるが(以下、主格属格現象が起こる節を NGC 節とする)、「の」が主語に付与できる場合(以下、「の」主語とする)、「が」が付与されること(以下、「が」主語とする)も可能であり、その交替は任意であるとされている(cf. Harada 1971:26)。

(1) a. boku ga yonda hon
b. boku no yonda hon (Harada 1971:26)

(2) a. Kinoo John ga/no katta hon (Hiraiwa 2001:73)
b. John ga/no kuru kanousei (Ochi 2001:247)

しかし、文脈によって NGC 節内でも主格属格交替現象が任意で起こりえない場合がある。例えば、(3a)では主格属格交替現象が起こるが、文脈を変え(3b)のようにすると「が」主語と不自然な文になり「の」主語が自然な文となる。

(3) a. 私{が/の}買う本はこれだけど、あなたはそれを買うんでしょ。
b. 私{??が/の}買う本はこれだけど、今日は買わない。 (佐久間 2017:131)

Maki & Uchibori(2008)によると、生成文法の枠組みでの主格属格交替現象の説明として、DP アプローチと Non-DP アプローチの２つが存在する。また、遠藤(2014)等の情報構造から主格属格交替現象を分析したものもある。本発表では、久野(1973)等のいわゆる総記と中立叙述のガの議論を参考に、NGC 節内で時制が現在形の場合の主格属格交替現象について以下の(4)の主張をする。

(4) a. 時制が現在形の NGC 節内で「が」主語は総記、「の」主語は中立叙述になる
b. 時制が現在形の NGC 節内での「が」主語は TP の指定部に生成もしくは移動し解釈され、「の」主語は vP の指定部に留まり解釈される

2. 先行研究

2.1. 主格属格交替現象

Maki & Uchibori(2008)によると、主格属格交替現象に関しては、Miyagawa (1993)等の主語がその外側にある DP の指定部に移動して主要部 D から「の」が与えられるという DP アプローチと Hiraiwa (2001)等の連体形の述部が主語に「の」を与える Non-DP アプローチの 2 つの立場が存在する。また、情報構造からの主格属格現象の分析もあり、例えば遠藤(2014)では属格「の」は古い情報を表し、明確には示されていないが、主格「が」は新しい情報を示すとしている。

・Miyagawa (1993)

(5) a. 同格節内の属格主語は DP の指定部に LF で上昇する。

b. DP の指定部は A 位置でもあり A'位置でもありえる。 佐久間 (2017:124)

・Hiraiwa (2001)

(6) a. D が現れないような NGC 節の中でも NGC が起こり得る。

b. C と T と v と V が融合したもの(連体形)が属格を主語に φ 一致で与える。

c. 多重主語構文の主格属格交替現象も C と T と v と V が融合したもの(連体形)が属格を主語に ϕ 一致で与えるられるために起こる。

d. 顕在的な補文標識は T と v と V と融合することが出来ないため連体形が現れず、主語に ϕ 一致で属格を与えることができない。 佐久間 (2017:128)

・遠藤 (2014)

(7) A: 今日、本屋に行って、Chomsky と Pesetsky と Rizzi の本を買ってきました。

B: 誰の/?が書いた本を最初に読みますか。

(8) A: 今日の授業で宿題が出たらしい。どんな本でもいいから 1 冊読んで、批判的に検討して、レポートにまとめるのそうだ。

B: 誰が/?の書いた本を読みますか。 (遠藤 2014:131)

2.2. 総記のガと中立叙述のガについて

久野(1973)によると、格助詞のガには、述部が動作・存在・一時的な状態を表す時に現れる中立叙述と、述部が動作・存在・一時的な状態以外に恒常的状態・習慣的動作を表す時にも現れる総記の二種類ある。また久野(1973)は、主文で総記のガ格名詞句であったものは、従属文中では総て中立叙述になるとしている。

(9) a. 総記を表わす「ガ」

動作・存在・一時的な状態を表す他に、恒常的状態、習慣的動作を表わす

太郎ガ学生デス。

(「(今話題になっている人物の中では)太郎だけが学生です」の意味)

b. 中立叙述を表わす「ガ」

述部は動作、存在、一時的な状態を表わす

雨ガ降ッテイマス。オヤ、太郎ガ来マシタ。

(観察できる動作・一時的状態を表わす) (久野 1973:28,32 を元に作成)

(10) 述部が動作、存在、一時的な状態 (総記も中立叙述も可能)

a. 太郎ガ見舞イニ来テクレタ。

b. 机ノ上ニ本ガアル。

c. 空ガ青イネ。 (久野 1973:32)

(11) 述部が恒常的状態、習慣的動作(総記のみが可能)

a. 太郎ガ学生デス。

b. 猿ガ人間ノ先祖デス。

c. 太郎ガ日本語ヲ知ッテイル。 (久野 1973:32)

(12) a. 君ハ[太郎ガ日本語ガデキル]コトヲ知ッテイマスカ。

b. [太郎ガ好キナ]子ノ、花子デス。 (久野 1973:33)

しかし、青柳(1999)は総記のガ格名詞句は従属節の中でも中立叙述にはならないとしている。

①主節で中立叙述のガ格名詞句からの数量詞遊離は可能であるが、総記のみの解釈が可能なガ格名詞句からの数量詞遊離は不可能である。これは従属節の中であっても同様である。

②主節で、裸名詞句は中立叙述のガ格名詞句の場合には存在的な解釈となるが、総記のガ格名詞句の場合には総称的な解釈しか出来ない。これも従属節の中であっても同様である。

⇒総記のガ格名詞句は従属節の中でも中立叙述にはならない。

・数量詞遊離

(13) a. [３人の学生]ガ校庭を走っている。

b. [学生]ガ[３人]校庭を走っている。

(14) a. [３人の学生]ガ怠慢だ。

b. *[学生]ガ[３人]怠慢だ。 (青柳 1999:774)

(15) a. みんな[３人の学生ガ校庭を走っている]と言った。

b. みんな[学生ガ３人校庭を走っている]と言った。

(16) a. みんな[３人の学生ガ怠慢だ]と言った。

b. *みんな[学生ガ３人怠慢だ]と言った。 (青柳 1999:775)

・裸名詞句の解釈

(17) a. 学生ガ校庭を走っている。(「中立叙述」)

b 学生ガ怠慢だ。(「総記」) (青柳 1999:777)

(18) a. 政治家ガ金持ちだ。

b. みんな[政治家ガ金持ちだ]ということを知っている。

c. この国では政治家ガ金持ちだ。 (青柳 1999:778)

3. 本発表での主張

(4) a. 時制が現在形の NGC 節内で「が」主語は総記、「の」主語は中立叙述になる

b. 時制が現在形の NGC 節内での「が」主語は TP の指定部に生成もしくは移動し解釈され、「の」主語は vP の指定部に留まり解釈される

3.1. 総記のガ、中立叙述のノ

まず、NGC 節内で時制が現在形の場合、「が」主語は総記の解釈、「の」主語は中立叙述の解釈になると主張する。(3a)では従属節の述部は、文脈から、恒常的状態(普段私が買うという解釈)でも一時的な動作(今私が買おうとしているという解釈)でもよく、総記でも中立叙述でも文脈的には問題にならないので「が」主語でも「の」主語でも可能になると予想ができる。しかし、(3b)では従属節内の述部は、文脈から一時的な動作(今私が買おうとしているという解釈)である必要がある。

(3) a. 私{が/の}買う本はこれだけど、あなたはそれを買うんでしょ。

b. 私{??が/の}買う本はこれだけど、今日は買わない。 (佐久間 2017:131)

ここで総記を用いた場合、恒常的状態と習慣的動作を示すことも可能になり、解釈上曖昧になる。しかし、中立叙述であれば一時的な動作の解釈だけが可能であるので、容認可能な文になる。よって「が」主語の場合、文法性が下がると主張する。また、主文において総記のガしか現れないような文を埋め込んだ場合、その埋め込み節が「の」主語の場合は「が」主語よりも容認度が下がる。以上のことから、「が」主語は総記の解釈、「の」主語は中立叙述の解釈になると主張する。

(19) a. 政治家{が/?の}怠慢な国を知っている

b. 先生{が/?の}お知りなっている日本語の表現

c. 文明国{が/?の}長い平均寿命という言説について調べた

ちなみに、東京方言では NGC 節内で主格属格交替現象が起こるが、主文で「が」主語も「の」主語を使う方言もあり、「が」主語は総記の解釈、「の」主語は中立叙述の解釈であるという報告もある。初島(1998)によると、佐賀方言では主文において「が」主語も「の」主語も用いられるが、総記の時には「が」、中立叙述の時には「の」を使うという使い分けがなされているとしている。

3.2. TP 指定部のガ、vP 指定部のノ

また、NGC 節内で時制を現在形にした場合、「が」主語は TP の指定部にあり、「の」主語は vP の指定部にあると主張する。

(20) a. [$_{TP}$ DPi=が [vP T]]

b. [$_{TP}$ [$_{vP}$ DP=の [VP v]] T]

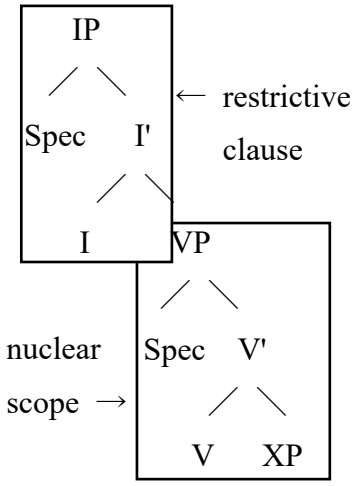
英語において裸名詞句が主語の場合、(21a)の available を述語とする文では、「出動可能な消防士がいる」という存在的な解釈と「消防士は一般的に出動可能であるものだ」という総称的な解釈が可能である。しかし、(21b) の altruistic を述語とする文では、「消防士は一般的に利他的なものだ」という総称的な解釈のみが可能であるとされている。(21a)の available のような主語の一時的な動作や状態を述べる述語は場面レベル述語(stage-level predicate: SLP)、(21b)の altruistic のような主語の恒常的な性質を述べる述語は個体レベル述語(individual-level predicate: ILP)と呼ばれる。

(21) a. Firemen are available.

b. Firemen are altruistic.

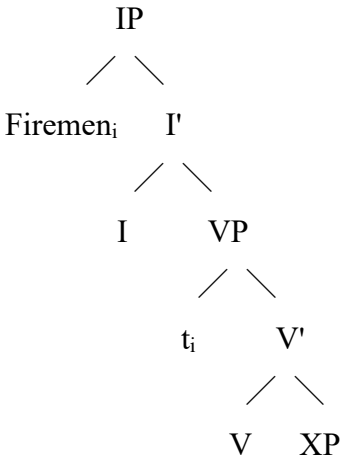
Diesing(1992)では SLP と ILP の違いは意味だけではなく、構造的な違いもあるとした。Diesing(1992)は(22)のような構造を仮定し、(22)で IP 内にある要素は制限節(量化詞に束縛される x についての制限を説明する部分) に写像され、VP 内にある要素は、論理式における中核スコープ(量化詞と制限節以外の部分)に写像されるものとした。この場合、SLP と ILP の構造は(23)のようになる。裸名詞句は中核スコープで非顕在的な存在量化詞に束縛(存在閉包)されることにより存在的な解釈、制限節内で非顕在的な総称演算子 Gen に束縛されることで総称的な解釈になるとした。

(22)

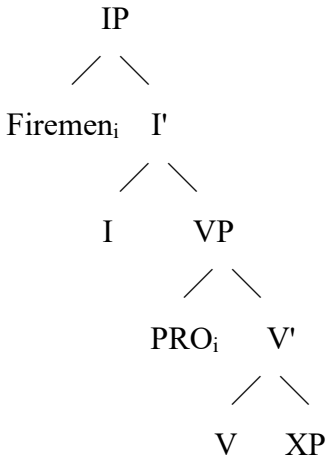


(Diesing 1992:9)

(23)a. SLP



b. ILP



(cf. 鈴木 2014:38)

中立叙述は述部が動作・存在・一時的な状態を表わし、総記は述部が動作・存在・一時的な状態を表す他に恒常的状態や習慣的動作も表わす。また、SLP は主語の一時的な動作や状態を述べる述語は場面レベル述語で ILP は主語の恒常的な性質を述べる述語である。総記は SLP と、中立叙述は ILP と類似している。よって、NGC 節内で時制を現在形の場合、「の」主語は中立叙述の解釈であるので vP の指定部にあり、「が」主語は総記の解釈である TP の指定部にあると言える。

「の」主語が vP の指定部に生成し留まり、「が」主語が TP の指定部に生成もしくは移動するとすると、「が」主語は数量詞遊離が出来るが、「の」主語は数量詞遊離が出来ないと予想できる。実際(24)では「が」主語は数量詞遊離しない形でも数量詞遊離した形でも文法的であるが、「の」主語からの数量詞遊離した形は非文になる。

(24) a.　３人の学生が元気な学校

b.　学生が 3 人元気な学校

c.　３人の学生の元気な学校

d. ？学生の３人元気な学校

さらに、主文で「が」主語も「の」主語を使う方言でも、「が」主語が TP の指定部、「の」主語は vP の指定部にあるという指摘はある。加藤(2005)によると、熊本方言では「が」は IP より高い位置で認可され、「の」は vP 内で認可されるとしている。

4. まとめ

4.1. 本発表の主張

(4) a.　時制が現在形の NGC 節内で「が」主語は総記、「の」主語は中立叙述になる

b.　時制が現在形の NGC 節内での「が」主語は TP の指定部に生成もしくは移動し解釈され、「の」主語は vP の指定部に留まり解釈される

4.2. 今後の課題

まず、時制も含めて「が」主語と「の」主語の位置について考える必要がある。鈴木(2017)によるとテンスと主語位置は関係があるとし、総記は総称テンス、中立叙述は存在テンスを取るとした。

本発表は NGC 節の時制が現在形の場合についての分析だが、時制によって「が」主語と「の」主語がどのように現れるのか、また意味はそれぞれどのようなものになるのか等について、さらに考察する必要がある。

また、時制が現在形の NGC 節内で主語が裸名詞の場合、「が」主語が総称的な解釈、「の」主語が存在的な解釈になるかどうか分析する必要がある。(25)のようなガ格名詞句の解釈が総記のみが可能な文を埋め込んだ文で、「が」が付与された裸主語名詞は総称的な解釈を受ける必要がある。また、(26)のような総記または中立叙述のどちらでも可能な文を埋め込んだ文で、「が」が付与された裸主語名詞は総称的な解釈、「の」が付与された裸主語名詞は存在的な解釈である必要がある。これについて、現時点で「学生」が総称の解釈なのか存在的な解釈なのか客観的に判断できるテストが見つかっておらず、今後テストを見つけ本発表での主張が正しいかどうか検討する必要がある。

(25) a.　学生が怠慢な学校　　< 学生{が/*の}怠慢である

　　b. ?学生の怠慢な学校

(26) a.　学生が元気な学校　　< 学生が元気である

　　b.　学生の元気な学校

参照文献

青柳宏(1999)「いわゆる「総記」のガに関する覚え書き」『アカデミア　文学・語学編』67: 769-788. / Diesing, Molly. (1992). Indefinites. Cambridge, Mass.: The MIT Press. / 遠藤喜雄 (2014).『日本語カートグラフィー序説』東京：ひつじ書房. / 初島康子(1998) 「佐賀方言の研究-主格の助詞『ノ』と『ガ』の使い分けについて」、『東京女子大学言静文化研究』7, 51-64. / Harada, Shin-Ichi. (1971) Ga-No Conversion and Idiolectal Variations in Japanese. *Gengo Kenkyu* 60: 25-38. / Hiraiwa Ken (2001). On nominative-genitive conversion. In Guerzoni Elena & Matushansky Ora (eds.), *MITWPL 39: A Few from Building E39: Papers in Syntax, Semantics and their Interface*, 66-125. Cambridge, Mass.: MIT Working Papers in Linguistics. / 井上和子 (1976)『変形文法と日本語』東京:大修館. / 加藤幸子(2005)「熊本方言における「が」と「の」の使い分けに関して」言語科学論集 9, 25-36. / 久野暲(1973) 『日本文法研究』東京:大修館. / Kuroda, S.-Y.(1992) Judgement forms and sentence forms. In S.-Y., Kuroda (ed.), Japanese Syntax and Semantics, pp.13-77. Dordrecht: Kluwer Academic Publishers. / Maki, Hideki & Uchibori, Asako. (2008). Ga/No Conversion. In Miyagawa Shigeru & Saito Mamoru (eds.), *The Oxford Handbook of Japanese Linguistics*, 192-216. Oxford: Oxford University Press. / Miyagawa, Shigeru. (1993) Case-checking and Minimal Link Condition. In: Phillips Colin (ed.) *MITWPL 19: Papers on Case and agreement II*, 213-254. Cambridge, Mass.: MIT Working Papers in Linguistics. / 佐久間篤(2017) 「東京方言における主格属格交替現象に関して：情報構造理論からの考察」『南山言語科学』12, 121-140. / 鈴木彩香(2014)「ガ格の総記/中立叙述用法と裸名詞句の総称存在解釈の統一的説明」『言語学論叢 オンライン版』7, 35-50. / 鈴木彩香(2017)「属性叙述文の統語的・意味的分析」博士論文, 筑波大学.